

◇ Asia Education Labo



Asia Education Labo Co.,Ltd
及びAsia Education Labo Vietnam Co.,Ltd CEO

二瓶 彩菜さん

現地の子ども向けにプログラミング教室を開く二瓶さん。テクノロジーを通じてアジアの子ども達を繋げることで子ども達の可能性を広げたい、とベトナムへ渡った彼女に、これまでの起業のきっかけや今後についてを伺いました。

働くひと



女性の強いといわれるベトナム
日本人女性だっって負けていません

私が子どもの頃、福島の田舎町にいなながらも熱意のある先生方のおかげで世界に目を向けることができました。それが原体験となり「世界中の子ども達の手助けになる活動がしたい」と志しましたが、具体案がないまま社会人に。しかし震災をきっかけに、やりたいことは行動しなければとヒントを求めて自身が受けた教育と似たオランダの教育現場を視察。そこで衝撃を受けたのが、子ども達がアプリやインターネットを通して隣国の子ども達と直接コミュニケーションを回っていたことです。そこで、子ども達同士が直接繋がることで同じ目標に立つ社会が生まれるのではないかと考えました。そしてこれこそ私がやりたいことだと確信し、今に至ります。これからは女性が活躍する時代。だからこそ当教室では女の子目線のプログラムも多く、生徒も7割が女の子です。今後はアジアの子供たちを繋げる仕組みを作るために当教室のメソッドを広めていきたいです。

熱い思いで夢をカタチに 「心の国境を越えて、より良い未来へ」

Q 仕事での苦労は？
A 日々色々ありますが、ライセンスの取得など法律面のやり取りが非常に煩雑で苦労しています。また、私の熱意を理解してもらいつつ、どのように現場スタッフのモチベーションを保ち一緒に頑張ってもらおうか、いつも考えています。辛い時は目のミッション、ビジョンに立ち返ること、支援者の方の顔を思い浮かべて、「こんなことではくじけない！」と思うようにしています。

Q 今後の展望を教えてください。
A 最近、知的障がいがあるお子様が会さず、プログラミング教育が持つ療育の可能性を実感しています。今後は、多様なお子様の可能性を引き出せるプログラムの開発を進めたいです。また、テクノロジーを通じた学習の機会を格差を埋めるため、貧困世帯の子ども達へも提供できる仕組みや世界中の子ども達がプログラミングを通じて繋がりが合う場の創出を無で行ってまいります。



Profile

1987年福島県田村郡三春町出身。NPO法人一新塾にて自身のビジョンを模索する中、原体験は小中学校時代の教育であることに気づく。現在CEOとして店舗運営やプログラム開発などを行う。多忙な生活を送る合間に、同級生コミュニティなどに参加して息抜きをしているそう。

編集後記

福島で生まれた教育が世界に発信され、福島の人々が誇りに思えるような事業を作り出したいという二瓶さん。被災した故郷に思いを馳せながら、良い社会を目指して真摯に仕事に取り組む彼女の熱い思いと行動が一つ一つ私たちになり、アジア、そして世界の子ども達が「国境を越えて繋がれる未来を、私も応援していきたい」と思いました！



Kids MBA Anyhapi

ベトナムの教育は日本以上の詰め込み型。自分の考えをアウトプットしたり、グループワークを行なったり教室の外に飛び出して学ぶ機会が、全国的にも殆どありません。

Kids MBA Anyhapiでは、実社会の中で「自分で考え、選択し、行動する機会」を創出するためベトナム現地企業や個人様のご協力の元子ども達に様々な体験活動の場を提供しています。

職業体験



社会科見学



農業体験・自然活動



グローバル体験



ものづくり体験

